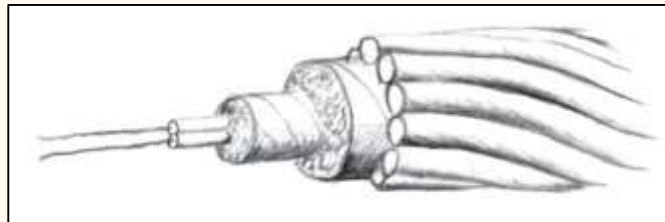


根室村ハッタリと国後島ケラムイ間を繋ぐ海底ケーブルの陸揚施設で昭和10年頃に旧通信省により設置されたとされています。戦前、このケーブルは根室から国後島を経由して択捉島の薬取村を繋いでおり、通信連絡手段として重要な役割を担っていました。現在も根室市の西浜町に当時の建物が残されています。

英米の密漁船対策やロシアの東漸政策への対策として千島の警備強化が必要となり、通信連絡手段の確保のため、北海道本島から択捉島薬取村までの電信線架設事業が明治二十九年から二九年計画で実施されました。

明治三十年の開線当初は「標津村三本木、国後島ノツエト崎」「国後島アトイヤ岬、択捉島丹根萌」間を海底ケーブルで結んでいました。流水により両海底ケーブルが相次いで不通となってしまいました。



海底電線の構造
旧通信省千島回線陸揚庫保存会
久保浩昭氏作



電信ケーブル実物
道立北方四島交流センター展示室

このため、明治三十三年に「根室村ハッタリ、国後島ケラムイ」「国後島白糠泊、択捉島丹根萌」間に海底ケーブルを布設し直したとのことです。

ハッタリとケラムイ間に布設された海底ケーブル線は英国製で、その構造は中心に二本の導線があり、導線の周りをゴムで覆い、その外側を約一センチメートルの麻のような繊維で覆っています。



◆所在地◆
根室国後間海底電信線陸揚施設
【住所】 根室市西浜町10丁目3 (市道海岸町通)

- ・根室駅から車で約5分
- ・根室駅から徒歩で約25分

※ 建物内部の一般公開はしていません。
※ 道立北方四島交流センター(根室市穂香110-9)展示室に電信ケーブルの実物が展示されています。



さらに外周に一本約五ミリメートルの鉄線十三本を用いて保護されています。

本施設はかつて北方領土に日本人が住んでいたことを示す証拠であり、当時の姿を残す数少ない貴重な建物です。平成二十五年に根室市が施設と土地を所有者より購入し、保存・整備を行っています。

令和三年十月十四日には国の登録有形文化財に登録されました。